

TPDS NEWS



※ TPDS = Tokyo Plastic Dental Society = (一社) 東京形成歯科研究会

Vol.25

配信日：2021年3月16日

配信元：(一社) 東京形成歯科研究会 事務局

学会(JSOI)運営に対する

“施設長コメント”

TPDS 施設長 奥寺 元 より

最近の(公社)日本口腔インプラント学会・JSOIにおける抗争は目に余るものがあります。あまりにも学術団体としての体裁から逸脱し、紛争の場になっており、その内容は感情的で学会として翻弄されているような気がいたします。昔、2学会があり抗争続きであったが、ようやく統一され、元に戻る様な事態にならないかと危惧しております。この流れを鑑みると、ある組織力の強い中に参入していた時は協調されていましたが、そのお家事情から、たもとを分かちあう事になり、それに対しての感情が見え隠れしています。今の集点は、組織力がある会が代議員の“数”で学会イニシアティブを取る事が根底にあるように言われていますが、然しこの事は、以前小嶋榮一関東甲信越支部長時代にくすぶりがあり、当時代議員の前進の評議員選出でも同様の事があった。小嶋支部長から当時議長依頼職であったため事態收拾を依頼された。その時、民主的な組織が賢明で評議委員選出に関して関東甲信越支部会員全員にアンケートを取り、その結果、民主的な運営は選挙での選出が結果となった。その後支部会総会で議決された。しかしその後、支部長が変わられ現組織力の強い体制が、その議決を無視続けて来た。ことある度に抗議をして来たが、理事選挙においても、多勢に無勢であり役員の選出は一方的であった。いずれ問題化がするであろうと考えていたが、まさに今である。今までの組織体制すなわち各施設の割り当て、そのままでの選挙となり大票田の組織力の強いままで今も変わらない。奇異な事に、一緒に無視し続けて恩恵を受けて来たものが、お家事情で一緒に成れず、はみ出され、その反発からの抗争と思われる。共にレベルが疑われる。このことは、今まで問題意識を持たなかった、会員一同開業医も大学側も考えるべきであった。学会は学術発展の場であり、このような抗争は無利益である。純粋に学会の事を考えた場合、医学の使徒として奉仕し汗を流す身であり、その立場の人間に多大な敬意を払わなければならないが、残念である。総会運営を鑑みた場合、特定な企業、特定な立場の人間におけるシンボや講演会として人寄せパンダを含めて、本来の姿が維持していなくその時の力の理論が動いている。やはり学会の原点は、科学的エビデンスを重点に発展を求めるには、一般口演、その上に課題講演などを総会第一にすべきで、現在の歯科界においてサロン学会の様な余裕は無いはずである。私の考えは、代議員選挙でと考えており、他学会でも行っております。また選挙の弊害は有るものの、いつまでも力では対応できず学会の原点を考えると、可能性はあります。最後に当会(東京形成歯科研究会)は紛争に巻き込まれずに、上に述べた活動に徹すべきで、学会の為の奉仕が多く、研究・研修をおろそかに出来ませんが、粛々と学会の本分を遂行してください。

施設長 奥寺元 合掌